

積乱雲

南国真夏の入道雲 JOCVのバイタリティー

第40号(2016・3)

●編集・発行

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会

鹿児島市卸本町8-20

TEL 099-268-9711

(題字・前会長 石神 兼文)

平成27年度 鹿児島県ボランティア家族連絡会を開催

平成28年1月30日(土)鹿児島市勤労者交流センターにおいて「鹿児島県ボランティア家族連絡会」が開催され、留守家族の6家族7名を含む18名が参加しました。

はじめに鹿児島県青年海外協力隊を支援する会 衛藤会長、JICA 九州市民参加協力課 瀧沢課長の挨拶に続き、来賓の鹿児島県観光交流局国際交流課 柿内課長補佐に挨拶を賜りました。

会では派遣中隊員の現地生活における諸待遇や、安全・健康管理における支援体制を中心にJICAボランティア事業について概要説明があり、弓場進路相談カウンセラーより帰国後に受けられる支援や、鹿児島県における帰国隊員の進路現況など詳しい説明と報告もありました。また、現在活動中の隊員から送られた家族宛ての手紙や現地での活動の様子が紹介されると、日頃メールやSNSを介して連絡を取っている家族が多いとはいえ、笑みを浮かべ、安心した様子が伺えました。

会の後半には、モンゴルで体育隊員として活動した帰国隊員の桑山さんによる活動報告がありました。「隊員は皆、日々模索しながら課題に取り組んでいることが分かり、娘だけが悩んでいるわけではないと安心した。」「派遣国では停電が日常的に起きているが、『多くの国で電気が使えないのは当然のこと。』と娘に言われた時、これならもう現地でやっていると確信した。」などの感想や想いが述べられました。協力隊OVとの懇談会では、任国や活動についての質問が尽きませんでした。会終了後には「実際に行かれたOVの話は大変興味深く、楽しく伺うことができた。」「治安を懸念していたが、JICAの体制を詳しく説明してもらい安心した。」「ぜひ派遣国を訪ねてみたいと思う。」「これからも安心して活動を見守ることができる。」などの声も聞かれました。帰る頃には不安や疑問も解消された様子で、それぞれにとって有意義な家族連絡会となったようです。



【衛藤会長による挨拶】



【桑山OBによる帰国報告】

【懇談会の様子】

JICAボランティア From 鹿児島

— 鹿児島新聞より —

JICAボランティア

From 鹿児島

私が派遣されているフィリピンのボホール島は2年前、M(マグニチュード)7.2の地震に見舞われた。人々の大切な当たり前の生活が一瞬で崩れた。死者は200人を超え、相次ぐ豪雨、そしてさらに甚大な被害をもたらした台風の襲来による

フィリピン 海越えつなく絆①

後藤 まどか



「もし、またボホールに地震がきたら、あなたはどうしますか」という問いに、「ライトと食料と水を準備する。そしてもう地震が来ないよう神様に祈ります」。多くの子供がそう答えたのが印象的で、今でも忘れられないフレーズである。

一瞬で生活壊した大地震



地震の寸断なく、想像するに堪えない状況下で、困窮も亦十字、各国の国際協力機関も被災地に入り救援、復興作業を行った。JICA(国際協力機構)もまた、現地に根付いて活動する青年海外協力隊、地元政府と協同し、仮設アンや防寒具などの救援物資配布、陥落した橋や道路の再建に尽力した。

公道から脇道に入り、車一台がやっと通る未舗装の狭たつ峠道の先にある。全校生徒253人、1984年生まれ。両さつま市出身。福岡市で9年間の旅行会社勤務を経て、2014年から福島の福井県に赴任し、エコツアー企画や観光振興のサポートを行っている。

2015年12月26日 南日本新聞

ネパール④

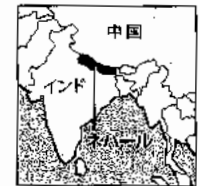
外西 朋子



JICAボランティア

ネパールという国を知っているだろうか。国土は北海道の1.8倍、緯度は奄美大島と同じだが、標高は8000から8千700まで地域によってさまざま。私の住む首都カトマンズは標高13000。1、2月が寒さのピークだが、先日やっと雨が降った。冷たい雨の後に春が来ると思われている。

停電修理ものんびり



この燃料不足で電気の供給はさらに不安定だ。配給はさらに不安定だ。さて、先日急に電気が来なくなった。電気がなくても何とかなるさ、日頃からもう気楽に考えていた私も、いざ急に電気がなくなると自分の備えが足りていないことに気がついた。電気が来なくなった理由を知りたて、大家さんに聞くと「うちも電気がないよ。ガスがない、ガソリンがない、電気がない。ネパールは問題がいっぱい」。そう言って落ち

ほかにし・とも氏 1982年生まれ、鹿児島市出身。有機農業組合職員を経て、2015年からネパールに赴任。農業の有機農業普及に当たる。

2016年2月13日 南日本新聞

JICAボランティア

From 鹿児島

モロッコへの道④

進藤 鈴子



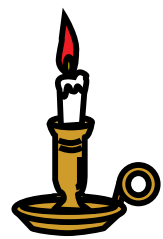
私は何度も何度も挑戦してやっと、CAシニア海外ボランティアに合格しました。0年の合格がとも夢のようでした。最初は免許、資格のある初級教育で10回も挑戦していたのです。普通の人はならさず、普通の人ならさずの正直が無かつたらサシを投じていると思います。何故私は何度も苦しい思いをしているのに断念をしないのでしょうか。この質問には自分自身でも回答がはっきりしませんが、一つには亡くなった父が子供の私によく聞いていた言葉があります。「一度や二度の失敗で崩れ落ちるような

何度も挑戦、夢つかむ



夢は見ない方がいい。尊敬する父の教えだけにこの年になってもいつまでも諦めず努力を続けていこうと決意しました。自分も、また後所に勤務する友人の誘いでJICAボランティアを知り、海外に出た。しかし、海外に出たばかりの私は英語が話せなくて、しかも英語の勉強をしてきませんでした。しかし、英語が話せなくていいから、英検準2級資格で語学力は大したことではありません。ひたすら何度も挑戦する中、JICAボランティア海外ボランティアとしてモロッコモハメディア観光技術専門学校、2011年8月〜13年7月と、アガデイール観光技術専門学校、11年7月〜現在で日本料理指導。

2016年2月26日 南日本新聞



派遣中の隊員から



平成27年度2次隊 ザンビア

家政・生活改善 若松 容子

ザンビアに来て、四カ月が経とうとしています。

今回、ザンビア派遣の同期隊員の中で唯一文明の力が及んでいない地域（電気無・水道システム無）への配属ということもあり、沢山の不安を抱えての任地生活の始まりでした。しかし、不便さの中から、人の温かみであったり、モノの有り難さを知ることができ、改めて協力隊へ参加して良かったと思っています。私の任地には、貧しい暮らしをしている方も多くいます。しかし、彼らは豊かな心を持っています。彼らとの触れ合いが、私の心もまた豊かにしてくれているように思います。先日、ようやく自分の活動をスタートさせることが出来ました。思うような協力が得られず、辛く思うこともあります。それでも応援してくれる方も沢山います。常に、周囲への感謝の気持ちを忘れず、志を持ち、自分の活動に邁進して行きたいと思います。お父さん、お母さんの協力があるからこそ、何の迷いもなく、私は前を向いていられます。心から感謝しています。

これからも、どうぞ温かく見守って下さい。



【村で生活改善指導を行う若松隊員】

【出発隊員紹介】

27年度2次隊



- ★若松 容子
- ★ザンビア
- ★家政・生活改善



途上国の食糧事情に関心を持ち、協力隊を志願しました。ザンビアで栄養改善、生活改善に取り組みます。日本、ザンビア双方の知識・技術共存ができればと思います。世界中の人々が安心して十分な食料を享受できる世界を目指したいです。



- ★紺屋 亮爾
- ★バングラデシュ
- ★食品衛生



今回バングラデシュへの派遣が許されました。要請はシャージャール国際空港で製造される機内食の安全管理を支援することです。海外生活初心者には不安の塊ですが、鹿児島県OBの支えも頂き、元気出して行ってきます。

27年度3次隊



- ★宝 政樹
- ★グアテマラ
- ★バレーボール

青少年活動の一環として、大好きなバレーボールを用いて活動してきます。日本人にはないもの、グアテマラにはないものを相互に伝え合えるようにがんばってきたいと思います。



- ★西 星良
- ★タンザニア
- ★数学教育

新卒で教員経験はありませんが、現地の生徒や教員とともに成長したいと考えています。鹿児島を離れての一人暮らし、海外生活。現地の生活にできるだけ染まって楽しんでいきます。



- ★橋口 岬
- ★モザンビーク
- ★数学教育

現地の人々に寄り添った活動にしていきたいと思います。数学が苦手な子ども達がとても多いと聞いているので、一人でも多くの子ども達に考える楽しさ、解けたときの嬉しさを伝えたいです。

【帰国隊員紹介】



平成27年7月～平成28年1月

橋口 慶太	モザンビーク	村落普及開発員	芝生 嘉恵	ペルー	コミュニティ開発
室屋 洸治	タンザニア	自動車整備	峰元 貴久	ザンビア	理科教育
岩瀬 沙織	パラグアイ	コミュニティ開発	救仁郷 香	ネパール	コミュニティ開発
鷺出 康太	フィジー	高齢者介護			

会員募集中です。

1人の多くの人の応援が、海を越えた若者たちを勇気づけ、そのエネルギーが地球中に広がります
 年会費：① 個人会員：5,000円/口 ② 特別会員：10,000円/口
 振込先：鹿児島銀行卸本町支店（普）829067
 名義人：鹿児島県青年海外協力隊を支援する会 会長 衛藤威臣
 なお 会員みなさまには 月刊誌「クロスロード」が送付されます



編集後記

昨年8月の50周年記念式典には県内各地から多くのご参加ありがとうございました。各方面から多数のご支援に感謝の思いを新たにいたしました。

南日本新聞に連載中の「JICA ボランティア From かごしま」楽しみにされている方も多いと思います。現地の今の様子、隊員の生活や活動の様子がよく分かると好評です。不定期に掲載予定です。ぜひご覧ください。